News Letter

2014.3

Vol. 10

東京医科歯科大学　学生支援・保健管理機構　学生・女性支援センター　女性支援部

平成25年度より、女性支援事業が定常化しました。

本学の女性支援事業は平成25年度で実施の6年目を迎えると共に、事業の定常化を迎えました。

本事業は、平成20年度に文部科学省・科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」に採択され、平成22年度まで3年間にわたって実施しました。専任の部署である「女性研究者支援室」が設置され、「環境整備」と「意識改革」の二項目に重点を置いて学内の女性支援事業に取り組んで参りました。

モデル事業終了後の平成23年度は「学内フォローアップ事業」として、そして平成24年度は「学長裁量経費」において事業を継続して実施しました。それにより女性支援事業を定着・充実させ、学内の定常化事業とするための準備も進めて参りました。事業が継続したことで、学内全体の女性研究者比率も増え、学内において研究・仕事・学業と育児・介護との両立を支援する意識も広がりました。

そしていよいよ平成25年度からは女性支援事業が学内の定常化事業となりました。これを機に「女性研究者支援室」は、今年度より学内に設置されました「学生支援・保健管理機構」の中の一部門「学生・女性支援センター　女性支援部」に改組し、活動を行っております。また「学生支援・保健管理機構運営委員会」、そして「女性支援専門委員会」との協議・協力・連携を行い、事業を円滑に進めております。

事業が定常化したことで、より一層学内の支援ニーズを集約することが可能となります。学生や教職員の方々が性別や年齢などに関係なく、その能力を十分に発揮できる環境づくりに努めることで、今後の本学における「ダイバーシティ（多様性）」の意識の推進に取り組みたいと考えております。

なお、「女性支援部」は、旧スチューデントセンターと統合し、平成26年2月26日より、5号館3階に移転します。

今後も、学内の皆様が研究・仕事・学業と家庭とを両立し、キャリアの継続をしやすくするための様々なプログラムを企画運営して参ります。引き続き、皆様のご支援・ご協力を賜れますよう、何卒よろしくお願いいたします。

女性支援事業の歩み

①平成20年度～22年度
文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」として実施が開始。専任で事業を行う「女性研究者支援室」が設置される

↓

②平成23年度
モデル事業終了後も、「学内フォローアップ事業」として継続

↓

③平成24年度
「学長裁量経費」として事業が継続

↓

④平成25年度
事業が定常化し、学生支援や健康管理支援等と連携した支援部門「学生・女性支援センター 女性支援部」として実施

平成25年度 女性支援事業　実施体制

学　長

↕

学生支援・保健管理機構長
学生・女性支援センター長

学生支援・保健管理機構運営委員会

報　告 ↕ 審議・承認

女性支援専門委員会

相談・提案 ↕ 支援・協力

学生・女性支援センター
女性支援部
（旧：女性研究者支援室）

事業の実施・企画

協力・補佐・連携
- 事務部（学生支援・保健管理機構）
- リサーチ・ユニバーシティ（RU）推進機構

事業の目的

Mission1.
教職員・学生が研究・仕事・学業と育児・介護等とを両立しやすい環境の整備

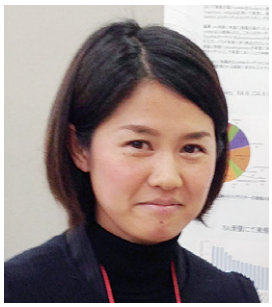
Mission2.
ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の意識や取組の推進

Mission3.
次世代を担う女性研究者の育成

Mission4.
ダイバーシティ（多様性）・男女共同参画の意識や取組の推進

研究支援員配備事業を利用されている方々のインタビュー

当部では、出産・育児・介護、あるいは女性特有の疾患により、研究業務のサポートが必要な方を対象に研究支援員を配置し、キャリアのサポートを行っています。今年度に事業を利用されている5名の方々にお話を伺いました。



大学院医歯学総合研究科　システム発生・再生医学分野　特任助教　**田中　陽子さん**

1 研究支援員配備事業を利用されて、どんなことが変わりましたか？ 具体的な改善面等も含めてお知らせ下さい。

①研究・仕事の面

私は2人の未就学児の育児を理由に本事業に応募しました。平成25年度の研究支援員配備事業は最大で週16時間の研究支援員雇用が可能でした。このような支援事業は初めてでしたので、週16時間という時間をどのように研究に活かせるか不安でした。実際は研究支援員の方との都合により週14時間の契約となりましたが、研究支援が始まってみると、自分の作業時間が週14時間も増えるというのは研究生活にとって、大変ありがたいことです。週14時間の内訳は7時間勤務を2日間です。研究業務においては子どもたちの病気で大学を休まなくてはならなくなった時や、出張の際に実験の作業の続きを行っていただけたのは大変助かりました。平日は支援員の方に実験や解析を行っていただいている間に私はその他の作業ができ、研究の効率化をはかることができたと思います。多量のサンプルの解析の時も手伝っていただき、大変助かっています。研究をお手伝いしていただくことになったのは他大学の博士課程在籍の男性の方です。彼の所属する研究室では経験できなかった実験方法を当研究室で経験・取得する事ができ、満足しているそうです。私や彼の実験がうまくいかない時など、研究について研究室を巻き込んで多くのディスカッションをすることができました。私自身も研究室のメンバーも彼から刺激を受けていたと思います。このように、研究支援員配備事業が研究室においても良い影響を与えることができました。

②プライベートの面

もし研究支援員がいらっしゃらなかったら、子どもたちの保育園でのイベントに今ほど参加できなかったかもしれません。「ママ、明日は（イベントに）来てくれるよね？」という子どもたちの期待に応えられたことがとても嬉しかったです。支援員の方も私の「ママ」という立場もよく理解してくれ、いつも励ましてくれて私自身の心にもゆとりができていたと思います。

2 当事業の支援を受けたことで、業績の向上に関与するものはありますか？

総論執筆：3件、学会発表：1件

総論などの執筆では書くことに集中できましたし、学会発表している間にも支援員の方に実験を行っていただいて、大変助かりました。

3 当事業について、改善点やご意見など、コメントをいただけますか？

現在のこの事業について大変満足しています。女性支援部のスタッフの方々にもいつも温かく、そして事細かに支えていただき、大変感謝しています。今回は育児による研究時間の制約を理由に本事業に応募させていただきましたが、他にもライフイベントでお困りのご家庭があると思います。家庭の事情により研究をやめることを決断した男性も女性も見てきました。それぞれの事情があるとは思いますが、子育てや介護といった家庭のライフイベントにより好きな職業をやめざるを得ない、というのは大変悲しい事だと思います。是非、当事業を継続していただきたいと思います。

研究支援員の応募は大学とJREC-INに応募概要を掲示させていただきましたが、週16時間という勤務形態で支援員が見つかるかどうかという不安はありました。しかしながら募集を開始すると幸運にもすぐに支援員への応募がいくつか届き、驚きました。応募されてきた方全員が自分のキャリアにもこの事業がプラスになると考えていらっしゃいました。今回の私の場合ですと、支援員の方にも少しはプラスになったかな、と思います。

4 ご自身の今後の目標をお聞かせ下さい。（プライベートも含めて）。

このまま、家庭を大切にしつつも、研究が続けていけたら本望です。自分の子どもも含め、次の世代に科学の大切さや楽しさを伝えていきたいと思っています。

5 次世代の女性研究者へのメッセージをお願いします。

私の世代でも女性研究者の数はまだそれほど多くないかもしれませんが、日本の女子大学院生の数は大

学院生全体の3割くらいですので、研究において女性が特に少ないと感じたこともありません（現在の研究室では研究者・学生含め女性は私一人ですが）。各々の興味は違うけれど、研究の大好きな女性が研究以外のことも抱えながら一緒に頑張っていければと思います。

大学院医歯学総合研究科　小児歯科学分野　助教　**茂木　瑞穂さん**

1 研究支援員配備事業を利用されて、どんなことが変わりましたか？ 具体的な改善面等も含めてお知らせ下さい。

①研究・仕事の面

研究支援員の方はお子さんがいる専業主婦の方でしたが、大手の実験委託会社に勤務されていた経験があったため、プロトコールを渡せば実験をして頂けるブランクを全く感じさせない仕事ぶりで大変助かりました。おかげで私が外来やオペ、学生実習を行っている間に、代わりに実験をして頂けるので研究が進みました。また、他の臨床研究や業務に時間を割くことができました。研究支援員の方の社会復帰・キャリアアップにも少々貢献できたのではないかと思っております。

②プライベートの面

試験管洗いや実験室の掃除などの雑用も快く引き受けてくださる方でしたので、私が保育園や学童にいる子どもたちのお迎えに行ける回数が増えました。プライベートが充実していると仕事にも打ち込めると思います。

2 当事業の支援を受けたことで、業績の向上に関与するものはありますか？

お蔭様で、EUROBIOFILMS 2013 (Belgium)、日本障害者歯科学会（神戸）にて学会発表ができました。また、投稿中の論文もあります。

3 当事業について、改善点やご意見など、コメントをいただけますか？

子育て中、介護中の女性に一番足りないものは“時間”です。今年度、支援員の方を付けて頂き、私に少しでも時間を与えてくださって本当にありがとうございました。また、自分で支援員の面接・決定ができたことは、自分のニーズに見合った人を雇えるのでとても良いシステムだと思います。

“医療分業”と同じように研究の分野でもテクニシャンという職業があることをご存知ない先生方がいらっしゃるのが現状なので、本事業の理解を職場に得るために周知徹底をお願いしたいです。

4 ご自身の今後の目標をお聞かせ下さい。（プライベートも含めて）。

患者さんに還元できるような研究の追究と解明に少しでも寄与できればと思っています。プライベートでは・・・子ども達に“母親失格”の烙印を押されないように頑張ります！

5 次世代の女性研究者へのメッセージをお願いします。

私も志し半ばですが、「為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」と思っています。自分次第だと思います。ワーク・ライフ・バランスは一人では成り立たず、家族や同僚、周囲の方々の支えがなくては成り立ちません。研究が続けられる喜びに感謝の気持ちを忘れずに。

難治疾患研究所　分子病態分野　特任助教　**成瀬　妙子さん**

1 研究支援員配備事業を利用されて、どんなことが変わりましたか？ 具体的な改善面等も含めてお知らせ下さい。

①研究・仕事の面

継続的に研究支援員を配備していただいているおかげで、介護のために実験が止まることが無くなり、学内外との共同研究にも安心して加われるようになったことを昨年度にご報告致しましたが、今年度はこうした共同研究が形となって業績に表れるようになりました。共同研究においては、一人の実験に遅れが出ると研究全体に影響しますが、研究支援員を配備していただいたため、責任を持って共同研究チームに貢献できました。その成果が業績として表れていますので、ご支援に感謝致します。また、このような成果を出せたことから、さらなる共同研究の取り組みにも着手しており、着実に成果を上げることの大切さを痛感しました。

②プライベートの面

母の介護（要介護5）に加え、最近では父（要支援2）も持病の影響で視力を失いつつあり、通院付き添いや日常生活を援助する頻度が高くなってきました。介護については、以前は一人で抱えて心身ともに疲れてうつになりかけましたが、ご支援により順調に研究成果を出せたことで得られた心の安定は、私の大きな支えとなりました。研究に割く時間やプライベートの時間は減ってきましたが、今は両親との介護の時間を大切にしたいと心から思えるようになりました。

2 当事業の支援を受けたことで、業績の向上に関与するものはありますか？

今年度は科研費（基盤C）に継続して採択されている他、3件の学会発表、5編の英文原著発表、1編の和文総説発表を行いました。なかでも、最近オンラインで公表されましたImmunognetics論文では、50種余りの対立遺伝子をクローニングする実験を、途中で一からやり直して仕上げました。もし研究支援員の力がなかったら、今でもまだ実験の半ばであったことでしょう。

3 当事業について、改善点やご意見など、コメントをいただけますか？

研究支援員の配備について、以前は年度途中からの施行でしたが、要望をお聞き届け下さり、今年度より年度当初より1年を通じて支援を受けられるようになりました。そのため年間を通じての研究計画が立てやすくなり、実験効率が向上しました。感謝申し上げます。

私の場合は自身の持病に加えて両親の介護があり、幸運にも複数年にわたり支援を頂いておりますが、当初に比べますと両親ともに要介護度が上がり、益々大変になってきました。教室や共同研究者の皆様にも迷惑をかけるかもしれないと、正直、退職も考えましたが、支援員配備のおかげで研究を続けることができてよかったと思っております。こうしてご支援頂くことが励みになり、また、頂いた支援に対して責任を果たすことが重要と考え、前向きになれた結果だと思います。様々な事情で能力を十分に発揮できない立場にある女性研究者に対するサポートは、大きな意義ある事業と考えます。

4 ご自身の今後の目標をお聞かせ下さい。（プライベートも含めて）。

所属教室である難治疾患研究所の教室員、特に、木村彰方教授は家庭環境を巡る諸事情へのご理解が厚く、かなりフレキシブルな研究生活をさせて頂いております。感謝の心で仕事と介護の両立を目指し、より質の高い研究論文を書いて恩返ししたいと思います。また、このような経験を活かして、次の時代を担う女性研究者にアドバイスできるようにしたいと考えます。

5 次世代の女性研究者へのメッセージをお願いします。

最近は女性研究者や女性労働者に対する社会の取り組みが急速に進んでいると実感します。こうしたサポートを受けて能力を発揮できることは、本人にとっても、組織にとっても大きな成長のチャンスでもあると思います。支援の取り組みがさらに大きくなり、多くの人が支援を受けられるようになるためには、まず、自らが支援を受け、責任を果たす、つまり、目に見える成果を出すことを地道に重ねてゆくことではないかと考えます。

大学院医歯学総合研究科　臓器代謝ネットワーク講座　特任助教　**伊藤　美智子さん**

1 研究支援員配備事業を利用されて、どんなことが変わりましたか？ 具体的な改善面等も含めてお知らせ下さい。

①研究・仕事の面

私は昨年度に引き続き、研究支援員配備事業に採択頂いたため、同じ方に継続して研究をサポートして頂くことができました。新たに研究内容や実験手技を説明するのは大変な労力を伴うことなので、本事業を継続して利用することができるとさらに大きな支えになると思います。論文執筆や研究費の申請など、研究室にいてもデスクワークをしなければいけない時期がありますが、研究支援員の方がいらっしゃるおかげで、デスクワークをしていても一定のスピードで実験が進んでいるということが、精神的な余裕にも繋がっています。

②プライベートの面

子どもがまだ小さいため、急な発熱や体調不良でお休みしてしまうことがあります。そのような時にメールや電話で連絡を取り、細かいことまでお願いできる方がいらっしゃるというのは本当に心強いです。

2 当事業の支援を受けたことで、業績の向上に関与するものはありますか？

産休から復帰する際は研究を続けていけるか不安でいっぱいでしたが、昨年度から研究支援員配備事業のご支援を頂いたおかげで、学会・研究会発表、論文などコンスタントに業績を出すことができました。来年度の研究費も新たに獲得することができ、ご支援頂いた成果を形にすることができて大変嬉しく思います。

3 当事業について、改善点やご意見など、コメントをいただけますか？

本事業が開始されてから、支援対象の拡大、支援期間の延長など年々改善して頂いていると思います。今回、私が2年連続でご支援頂けたように、継続して採用頂けると、支援員の方との関係性もより強固なものとなり、実験の効率も格段に上昇するのではないでしょうか。雇用継続について事前に支援員の方と相談できるように、次年度の採用枠を早めに応募・決定して頂けるとありがたく思います。

4 ご自身の今後の目標をお聞かせ下さい。（プライベートも含めて）。

研究室・学内では現在の状況に対して色々ご配慮を頂いていますが、対外的には研究者として女性だから、育児中だからというのは関係のないことです。しっかりよい研究をして、新しい知見を発信していけるよう頑張りたいと思います。

5 次世代の女性研究者へのメッセージをお願いします。

仕事と家庭とを両立させるためには、自分にとって大事なことが何かという優先順位を考えながら物事を進める必要があります。思った通りにいかないことも多々ありますが、柔軟に変化を恐れず楽しんでいく気持ちがあれば、少しずつ道は切り開けるのではないでしょうか。

大学院医歯学総合研究科　顎顔面補綴学分野　講師　**隅田　由香さん**

1 研究支援員配備事業を利用されて、どんなことが変わりましたか？ 具体的な改善面等も含めてお知らせ下さい。

①研究・仕事の面

主に文献検索をしていただいております。文献検索は研究立案および論文作成にとても重要ですが、検索時間やダウンロード時間が必要です。（オンラインでほとんどの過程が完結いたしますので大学院時代から比較すると数段楽なのですが）。しかしながら、実質時間としてかなりの時間を要する、あるいは使用してやるべき大きな仕事です。その仕事を外来での診療にあたっている間に、本支援事業にて配備していただいた支援員に行っておいていただけることは大変時間の節約になっております。また、他施設に複写依頼をする必要があるときなども速やかに進めて貰え、感謝しております。

論文収集まで済んでおりますので、研究計画の立案で焦点にすべき内容が明らかになり、大学院生とのディスカッション、研究遂行、論文作成などがスムースに流れるようになりました。

②プライベートの面

私のまねなのか、あるいはわかりにくい職業のためにいったい毎日なにをしているのか気になるのかは不明ですが、今日は大学で母は何をしたのかと毎日娘から聞かれます（なんだか家におせっかいな指導教官がいるかのようですが・・・）。そのときに，これが出来たわよ！！、終わったのよ！！と具体的に答えられることが多くなりました。何よりです。ありがとうございます。

2 当事業の支援を受けたことで、業績の向上に関与するものはありますか？

以下の論文を執筆いたしました。

Open Journal of Stomatology (2013), Volume3, No.7. pp.365-369
Scientific Research Publishing, Inc., USA.
【Title】Automatic evaluation of speech impairment caused by wearing a dental appliance
Author：Mariko Hattori, Yuka I. Sumita, Hisashi Taniguchi

Chapter 4 edited by Dongqing Wang, Selected Topics on Computed Tomography, INTECHOPEN.COM, 2013
【Title】Development of articulation simulation system using vocal tract Model,
Author：Y.I. Sumita, K. Inohara, R. Sakurai, M. Hattori, S. Ino, T. Ifukube and H. Taniguchi

3 当事業について、改善点やご意見など、コメントをいただけますか？

大変ありがたい事業です。活動時間の絶対値が減るなかでいかにして効率よく仕事をするかを常に考えておりますが、やはり限界がございます。猫の手も借りたいような状況のなか、猫の手どころかオーダーにすぐに応えてくれる、頼れる、ありがたい人材がすぐそばに存在していてくれることは、私の心のより所にもなってくれています。

4 ご自身の今後の目標をお聞かせ下さい。（プライベートも含めて）。

目の前の仕事を粛々とやり続けること。小さな結果にいちいち右往左往しないこと。

5 次世代の女性研究者へのメッセージをお願いします。

自転車操業どころか一輪車操業の毎日も健康あって初めて成り立ちます。体調管理は誰も助けてはくれません。元気であれば、研究や生活に何か大きな波がやってきたときにもうまく波に乗れると思います。頑張っていきましょう。私も頑張ります。

シンポジウム「ダイバーシティの更なる実現に向けて」を開催しました。

学内の方々が、育児や介護などのライフイベントを経ても仕事を続けやすくする環境を整え、今後のダイバーシティの意識を高めるために、シンポジウム「ダイバーシティの更なる実現に向けて」を平成25年11月16日（土）に開催しました。本学における女性支援事業の定常化を記念するキックオフシンポジウムとしても開催され、学内外から220名を超える参加者が、M&Dタワーの鈴木章夫記念講堂に集まりました。

司会　伊藤聡子氏

シンポジウムは、谷口尚教授（学生支援・保健管理機構長）および大山喬史学長からの挨拶で幕開けし、続いて、森まさこ内閣府特命担当大臣による基調講演「女性が輝く社会の実現に向けて」が行われました。

森大臣は、“ちがい”に価値を見出すダイバーシティ（多様性）の観点から、女性活力推進が人権問題解決のみでなく経済戦略としても有効であること、女性研究者

内閣府特命担当大臣　森まさこ氏

順天堂大学　平澤恵理氏

アステラス製薬　矢野章作氏

比率の増加が現状の日本の喫緊の課題として挙げられること、男性も育児や介護に参加し女性と協力してワーク・ライフ・バランスを充実させることの重要性について触れました。また、矢野章作氏（アステラス製薬(株)）、平澤恵理氏（順天堂大学）、渥美由喜氏（(株)東レ経営研究所）、本学の三高千恵子准教授、有馬牧子助教の講演により企業や大学の取組と実例が紹介され、和田勝行氏（文部科学省）からは同省の施策に関する情報提供がなされました。

次いで、井関祥子教授（女性支援専門委員会委員長）をコーディネーターに、各講演者および山村康子氏（（独）科学技術振興機構）、本学の石野史敏教授、登壇者の皆様をパネリストにむかえたパネルディスカッションが行われ、活発な議論と参加者との質疑応答が繰り広げられました。

東レ経営研究所　渥美由喜氏

文部科学省　和田勝行氏

本学　三高千恵子氏

本学　井関祥子氏

本学　有馬牧子氏

科学技術振興機構　山村康子氏

Symposium

特に医療従事者を多く擁する本学においては、女性医師等が育児や介護の局面を迎えたときに、臨床業務と両立できる環境にあるのか、また男性医師への負担軽減や、男性医師が家事・育児に参画しやすい仕組みが整っているか等について再確認することの必要性が提案されました。

最後は、江石義信教授（学生・女性支援センター長）が、性別や年齢はもとより、国籍や価値観、個人の経験など、あらゆる多様性を受け入れた組織運営が今後の国際社会において重要なテーマになってくることを閉会挨拶で述べ、シンポジウムは閉幕しました。

本学　石野史敏氏

パネルディスカッションの様子

Career Support

「若手研究者キャリアデザイン事業」を実施しました。

次世代育成支援事業の取り組みとして実施している「若手研究者キャリアデザイン事業」は、今年度で4回目を迎えました。本事業は、参加メンバーである女子大学院生が今後の自分のキャリア形成において必要なプロジェクトを自主的に企画運営することを目標として実施しています。

今年度のメンバーは、医歯学総合研究科、難治疾患研究所および保健衛生学研究科に在籍し、学業・研究・臨床を行っている女子大学院生12名です。そのうち、4名は海外（ネパール、バングラデシュ、中国、新疆ウイグル自治区）からの留学生でした。

企画内容としては、家庭と仕事との両立に関して、既婚者と未婚者とのあいだの意識の違いや、必要な支援体制を明らかにする「①Family and Career－家庭とキャリア－」グループ、大学院を修了した後にどのようなキャリアパスがあるのかを知る「②大学院修了後の女性のキャリアデザインについてのインタビュー」グループに分かれ、7月から11月まで活動を行いました。これらの活動を報告書として「Wheel of Life～これから考えたいキャリア選択～」にまとめ、平成25年11月に発行しました。

報告書の表紙の色やデザインも参加メンバーで投票して決めており、メンバーのオリジナリティがあふれた報告書が出来上がりました。

報告書は、右記URLで閲覧可能です。　http://www.tmd.ac.jp/ang/report/H25_RA_Report_all.pdf

Career Support

＜Family and Career ―家庭とキャリア―＞

参加メンバー

杉　山　香　織（リーダー）	（医歯学総合研究科・分子神経科学分野・修士課程1年）
金　崎　彩　子	（医歯学総合研究科・顎顔面補綴学分野・博士課程1年）
主　原　　翠	（医歯学総合研究科・先進倫理医科学分野・博士課程2年）
鈴　木　スピカ	（医歯学総合研究科・歯科心身医学分野・修士課程1年）
Abhishekhi Shrestha	（医歯学総合研究科・スポーツ医歯学分野・博士課程1年）
Zulpiye Habibulla	（医歯学総合研究科・整形外科学分野・博士課程3年）
Ripa Jamal	（医歯学総合研究科・国際環境寄生虫病学分野・博士課程1年）

「Family and Career―家庭とキャリア―」グループでは、本学の男女の教職員・学生及び留学生を対象にしたアンケート調査「家庭とキャリアの両立に関するアンケート」を平成25年8月に実施しました。留学生も回答しやすいように英語の設問も作成し、調査への参加を促しました。調査結果として、将来子供ができた際に育児休業を取得したいと回答する男性が若い世代を中心に見られ、男女共に育児に参加するという意識が広がっていることが分かりました。また将来出産した後の働き方が明確にイメージできるような環境作りや個人のキャリア形成の意識が重要であるとの提案がなされました。更に、両立の状況を知るため、外国人・日本人の既婚の研究者、および研究者のカップルを対象に、インタビューを実施しました。

＜大学院修了後の女性のキャリアデザインについてのインタビュー＞

参加メンバー

李　　娜（リーダー）	（医歯学総合研究科・包括病理学分野・博士課程4年）
鈴　木　陽　子	（医歯学総合研究科・心身・緩和医療学分野・博士課程1年）
小　野　恵　子	（医歯学総合研究科・精神行動医科学分野・修士課程1年）
八　田　愛理奈	（難治疾患研究所・分子薬理学分野・修士課程1年）
保　科　ゆい子	（保健衛生学研究科・看護システムマネジメント学分野・修士課程1年）

「大学院修了後の女性のキャリアデザインについてのインタビュー」グループでは、現在アカデミックポジションや企業等で活躍している研究者の方々8名にインタビューを行いました。修士課程を卒業した方3名、博士課程を卒業した方5名にそれぞれインタビューを行い、「就職活動を始めた時期」、「修士課程と博士課程にそれぞれ進学することのメリット・デメリット」、「進路決定の際に迷ったこと」、「仕事のやりがい」等、これまでのキャリアパスについて聞きました。修士課程と博士課程に進まれた方々のキャリアパスの状況を比較することで個別のキャリアデザインの取り組み方を知り、身近な具体例として参考にすることができました。

Open Campus

オープンキャンパスに参加しました。

平成25年8月1日（木）・2日（金）に開催された本学のオープンキャンパスにおいて、当部の活動に関するポスター展示、および若手研究者キャリアデザイン事業の紹介を行いました。高校生や学生、友人同士で参加される方などを合わせ、2日間で5000人の方々が来場されました。当日は、参加者の方々に将来の夢を書いて頂き、「キャリアツリーのポスター」に掲示するという毎年恒例の企画を行いました。毎年、多くの方々から将来の夢を寄せて頂いており、今年もオープンキャンパスが終わるころにはポスターに貼るスペースがないほどたくさんの夢のメッセージが掲示されました。

若手研究者キャリアデザイン事業においては、各グループで

活動内容のポスターを作成し、各メンバーが交代で参加者の方に活動の紹介を行いました。

参加者の方々からは、「どのような1日のスケジュールで研究生活を送っていますか」といった質問がよせられ、事業のメンバーは先輩研究者として対応していました。事業のメンバーである女子大学院生が、本学に入学を検討している学生の方々への身近なロールモデルとして、活動内容について積極的な周知を行うことができました。

Career Support

キャリアセミナーを行いました。

平成25年8月6日（火）、8月19日（月）に２回連続で本学の学生、教職員を対象としたキャリアセミナーを行いました。講師は、女性支援部の有馬牧子助教が務め、第一回は「自分の価値観を知ろう・これまでのキャリアを振り返ろう」をテーマに、そして第二回は「自分のライフキャリアレインボーを描いてみよう・現在と今後のキャリアを考えよう」をテーマに実施しました。セミナーでは、性別や年齢、ポジションにかかわらず、個人一人一人が生涯において多様なキャリアを持ち、それが発達し続けることの重要性を重点的にご紹介しました。参加した方々からは、「自分の価値観を客観的に知ることができ、今後の方向性を考える参考となった」等のコメントが寄せられました。このキャリアセミナーは毎年実施していますが、毎年参加頂いている方もいらっしゃり、「毎回新しい発見がある」という嬉しいコメントもいただいております。次年度も継続して実施して参ります。

Career Support

コミュニケーションセミナーを行いました。

連続4回開催で、コミュニケーションセミナーを開催しました。講師は女性支援部の有馬牧子助教が務めました。以下が開催日程とテーマです。

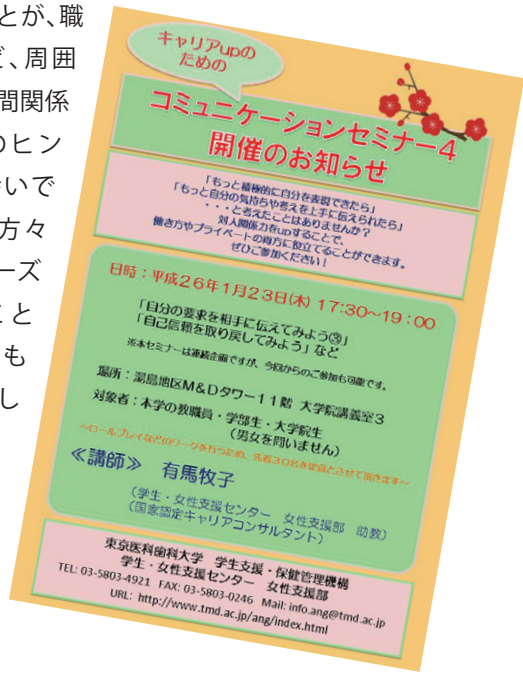
第一回：平成25年9月4日（水）「コミュニケーションに必要な力とは・相手の話を上手に聴いてみよう」

第二回：平成25年10月3日（木）「コミュニケーションパターンを知ろう・自分の要求を相手に伝えてみよう①」

第三回：平成25年12月18日（水）「自分の要求を相手に伝えてみよう②」

第四回：平成26年1月23日（木）「自分の要求を相手に伝えてみよう③・自己信頼を取り戻してみよう」

学内の方々がキャリアを作って行く上で必要な「コミュニケーション力」を身につけ、職場や研究室での人間関係やプライベート、患者さんとのコミュニケーションにも役立てることを目的としました。自分の物の考え方や、コミュニケーションのパターンを理解するためのグループワークを行い、自分の気持ちや要求を相手の立場を尊重しながら伝える言い方を学び、ロールプレイを行いました。この講義で学んだことが、職場や家庭など、周囲とより良い人間関係を築くためのヒントとなれば幸いです。参加者の方々から実施のニーズが高かったことから、次年度も継続して実施して参ります。



Child Care

ベビーシッター育児支援事業割引券が利用できます。

本学では、教職員の方々の育児と仕事との両立を支援するため「一般財団法人 こども未来財団」が実施する、「ベビーシッター育児支援事業割引券」制度を導入しています。自宅でベビーシッターサービスを利用すると、1日の利用料金から1,700円の割引を受けられます。

当部で実施している病児保育サービスとの併用も可能です。ぜひ、ご活用ください。

1．利用対象者

本学に雇用されている教職員のうち、

① 厚生年金保険被保険者（青色の保険証をお持ちの方）

② 共済組合員（黄色の保険証をお持ちの方）

で、配偶者が就労している方、もしくは配偶者のいない方

2. 対象児童年齢

・0歳から小学校3年生の児童

・健全育成上の世話を必要とする小学校6年生までの児童

3. 割引対象金額

1日につき1家庭　1,700円

4.利用条件

・就労のために在宅保育サービスを利用する場合

・1日の個人負担金が1,700円以上である場合

・原則、共働きで利用時も就労していること。

5.利用可能期間

平成26年3月31日まで。次年度以降のご利用に関しては、初回申請手続きが再度必要になります。

6.登録方法・ご利用方法

「ご利用案内」をご一読の上、ご申請下さい。お問い合わせは、総務部人事課福利厚生掛までお願いいたします。

（1号館1階、内線4654）

7.ご利用案内

https://www1.tmd.ac.jp/artis-cms/cms-files/20131122-135302-2079.pdf

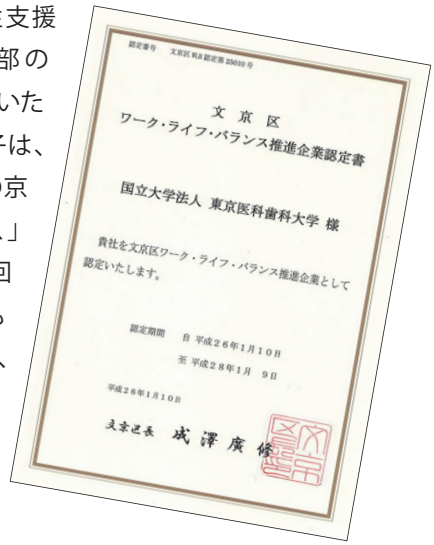
Career Support

文京区ワーク・ライフ・バランス推進企業に認定されました。

このたび、本学が「平成25年度文京区ワーク・ライフ・バランス推進企業」に認定され、平成26年1月23日（木）に文京区の男女平等センターで「ワーク・ライフ・バランス推進企業認定授与式」が開催されました。

男女が共に働きやすい職場環境づくりや、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現に向けた取り組みを行う機関を文京区内で募集し、新規・更新を含め14社が認定されました。

授与式においては、文京区長から各機関の代表者に認定書が授与され、本学からは、学生支援・保健管理機構の谷口尚機構長、学生・女性支援センター女性支援部の有馬牧子助教が参加いたしました。当日の様子は、ケーブルテレビ「文の京ウィークリーニュース」（1/27～放送、1日3回放送、10分番組）でも放送されました。また、YouTubeでも配信されています。


文京区
ワーク・ライフ・バランス推進企業認定書

国立大学法人 東京医科歯科大学 様

貴社を文京区ワーク・ライフ・バランス推進企業として認定いたします。

認定期間 自 平成26年1月10日
至 平成28年1月 9日

平成26年1月10日

文京区長 成澤廣修

YouTube
「文の京ウィークリーニュース1月27日～放送」
URL：http://www.youtube.com/watch?v=AzqhWg5GTFA

Child Care

病児保育サービスについて

当部では、リサーチ・ユニバーシティ（RU）推進機構と連携して専門のシッター会社に業務委託し、お子さんが急に熱を出したときに、代わりにケアを行う病児保育を実施しています。これまで利用者の方々に行ったモニター調査からニーズ分析を行い、今年度は（株）マザーネットと連携し、お子さんの急な発熱時などに自宅まで保育士が派遣され、病児ケアを行うサービスを提供しています。

事業へのニーズは高く、平成25年度は、昨年度の倍となる40世帯まで利用登録枠を広げて実施しています。利用された方々からは、「感染症の際にも子どものケアをしてくれて助かった」「急な発熱でも重要な会議を休まずに済み、今後も仕事と両立して行けると思った」といったご意見を頂いています。今後も、より皆様のニーズに合った病児保育サービスを提供できるようにして参ります。

「くるみん」マークを取得しました。

本学では、教職員の仕事と家庭との両立を支援し、すべての教職員が能力を最大限に発揮できる多様な労働環境の促進を行って参りました。このたび、「東京医科歯科大学一般事業主行動計画」（平成22年4月1日～平成24年3月31日）に定めた目標を達成し、認定基準を満たしたことから次世代認定マーク「くるみん」を平成25年4月16日付けで取得しました。「くるみん」は厚生労働省の一般公募により決定したマークで、赤ちゃんが大事に包まれている「おくるみ」と、「職場ぐるみ・会社ぐるみ」で子供の育成に取り組もう、という意味が込められています。大学のホームページから、マークのダウンロードができ、本学の作成物や名刺に使うことができます。詳細は、大学HP：**http://www.tmd.ac.jp/news/kurumin/index.html**をご覧ください。

編集発行
東京医科歯科大学
学生支援・保健管理機構　学生・女性支援センター　女性支援部
〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45 5号館3階
Email: info.ang@tmd.ac.jp
電話：03-5803-4921　FAX：03-5803-0246
URL: http://www.tmd.ac.jp/ang/